

全般季節予報支援資料 1か月予報

2025年10月16日

予報期間：10月18日～11月17日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項

西日本では期間のはじめ、沖縄・奄美では期間の前半は気温がかなり高くなる所があるでしょう。一方、北日本では、期間の前半はかなり低くなる所があるでしょう。

出現の可能性が最も大きい天候

北日本日本海側では、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

北日本太平洋側と西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

東日本日本海側では、期間の前半は、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

東・西日本太平洋側と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

全般1か月予報(確率)

1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低 並 高	少 並 多	少 並 多	少 並 多
北日本	日本海側 太平洋側	40:30:30	30:30:40 30:40:30	40:40:20 30:40:30	
東日本	日本海側 太平洋側	20:30:50	30:30:40 30:30:40	40:40:20 40:40:20	
西日本	日本海側 太平洋側	10:30:60	30:30:40 30:30:40	40:30:30 40:40:20	
沖縄・奄美		10:20:70	20:40:40	40:40:20	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3～4週目(%)
	低 並 高	低 並 高	低 並 高
北日本	70:20:10	30:50:20	20:40:40
東日本	20:40:40	20:40:40	20:30:50
西日本	10:20:70	10:30:60	20:30:50
沖縄・奄美	10:10:80	10:10:80	10:30:60

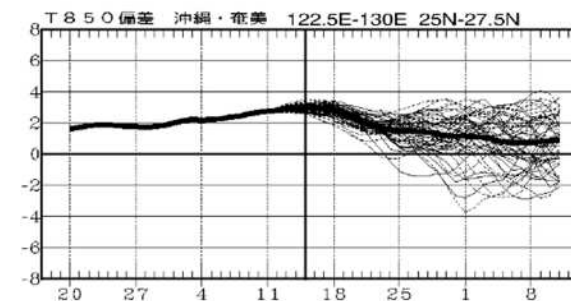
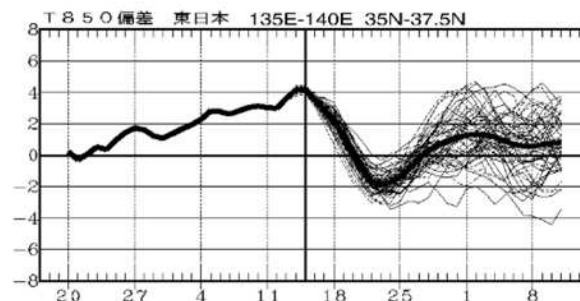
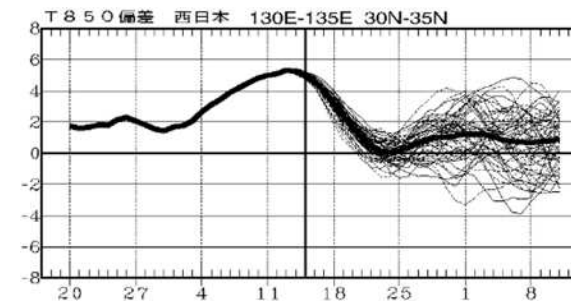
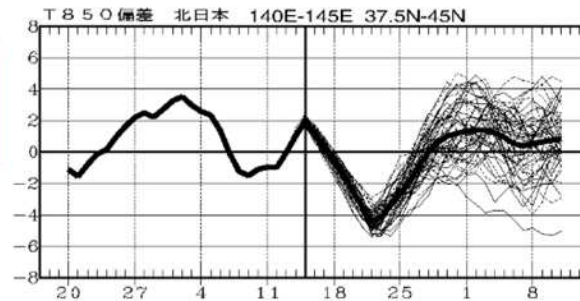
全般1か月予報のポイント

- ・東・西日本と沖縄・奄美の向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため高く、西日本では期間のはじめ、沖縄・奄美では期間の前半はかなり高くなる所があるでしょう。一方、北日本では、期間の前半は寒気の影響でかなり低くなる所があるでしょう。
- ・寒気の影響を受けやすい時期があるため、北・東日本日本海側の向こう1か月の日照時間は、平年並か少ないでしょう。
- ・低気圧や前線及び湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、沖縄・奄美の向こう1か月の降水量は、平年並か多いでしょう。また、東・西日本太平洋側と沖縄・奄美の向こう1か月の日照時間は、平年並か少ないでしょう。

各週における天候のポイント(気温)

	1週目(10/18~10/24)	2週目(10/25~10/31)	3~4週目(11/1~11/14)
想定される天候(気温)	北日本では低いでしょう。一方、東日本では平年並か高く、西日本と沖縄・奄美では高いでしょう。	北日本では平年並でしょう。東日本では平年並か高く、西日本と沖縄・奄美では高いでしょう。	北日本では平年並か高く、東・西日本と沖縄・奄美では高いでしょう。
根拠	北日本では、20日以降、冬型の気圧配置が強まり、この時期としては強い大陸の寒気の影響を受ける。一方、東・西日本と沖縄・奄美では期間の半ばまでこれまでの暖かい空気の影響が残る(P.8,P.12,P.13参照)。	北日本を中心とした1週目の寒気の影響が弱まり(北海道では残る)、東・西日本と沖縄・奄美では、高いSSTの影響も受けた暖かい空気に覆われやすい。特に、前線帯の南に位置する沖縄・奄美ではかなり高い。(P.8,P.12,P.13参照)。	偏西風が北偏して流れ、高いSSTの影響も受けた暖かい空気に覆われやすい(P.8,P.12,P.13参照)。

850hPa気温 偏差時系列

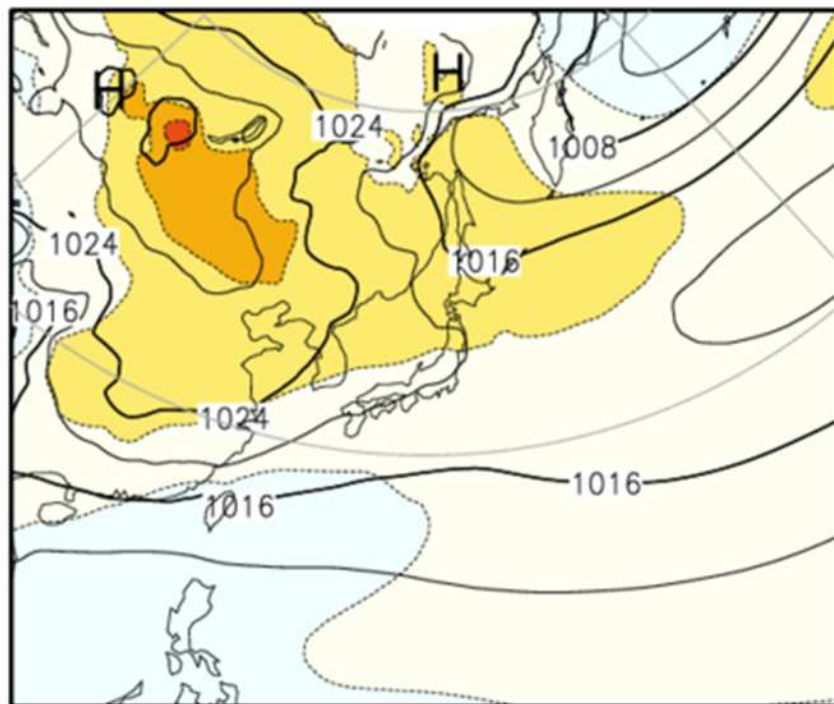


各週における天候のポイント(天気)

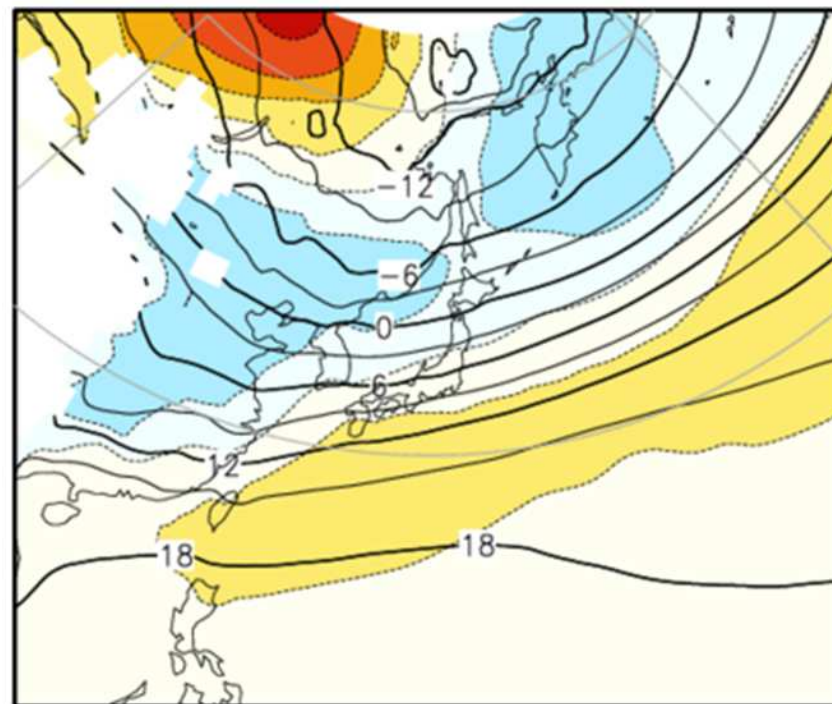
	1週目(10/18～10/24)	2週目(10/25～10/31)	3～4週目(11/1～11/14)
想定される 天候 (天気)	北・東日本日本海側では、寒気の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。 北日本太平洋側と西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。 東・西日本太平洋側と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わりますが、低気圧、前線や湿った空気の影響で、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。	北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。 北・東日本太平洋側と西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。 東日本日本海側と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わるでしょう。	北・東日本日本海側では平年と同様に、曇りや雨の日が多いでしょう。 北・東・西日本太平洋側と西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。 沖縄・奄美では天気は数日の周期で変わるでしょう。
根拠	北・東日本日本海側ではこの時期としては強い寒気の影響で、寡照。東・西日本太平洋側と沖縄・奄美では低気圧、前線や湿った空気の影響で、寡照傾向(P.10-P.13参照)。	全国的に平年と同様の天候だが、北日本日本海側では寒気の影響が残り、また、東・西日本太平洋側と沖縄・奄美では、低気圧、前線や湿った空気の影響で、やや寡照(P.10-P.13参照)。	全国的に平年と同様の天候だが、北・東・西日本太平洋側と沖縄・奄美では、低気圧、前線や湿った空気の影響で、やや寡照(P.10-P.13参照)。

数値予報モデルからみる全般1か月予報のポイント

海面気圧(1か月)



上空約1500mの気温(1か月)



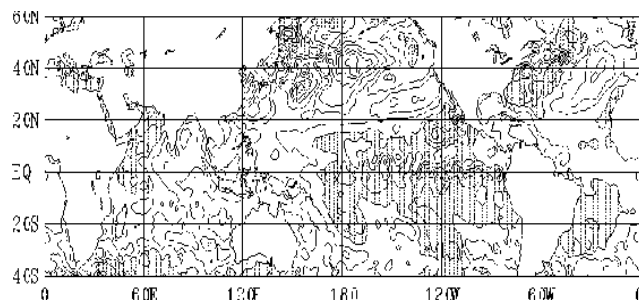
1か月平均の海面気圧(左図)は、大陸でシベリア高気圧が強く、日本付近に張り出す一方、日本の東には気圧の谷、沖縄の南から日本の南にかけては平年より気圧が低く予測されています。

上空約1500mの気温(右図)は、北日本では平年より低く、西日本と沖縄・奄美では平年より高く、日本付近では気温の南北の傾きが大きいと予測されています。

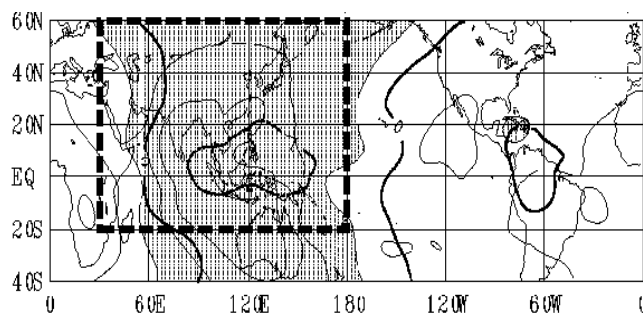
これらのことから、北日本を中心に寒気の影響を受ける時期があり、東・西日本太平洋側と沖縄・奄美では、低気圧や前線、湿った空気の影響を受けやすい時期があるでしょう。

予報資料の解釈(1か月) 熱帯循環場

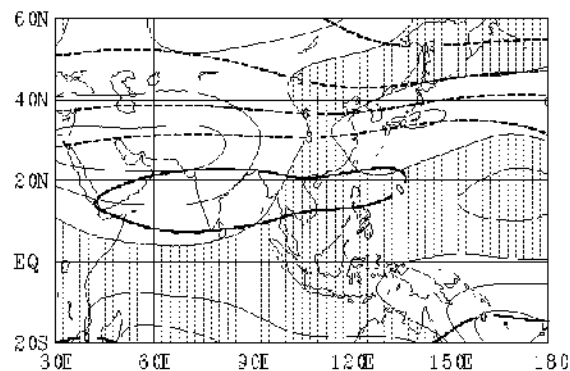
SST偏差



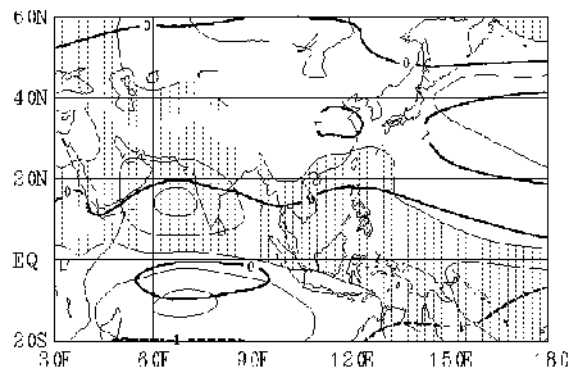
200hPa速度ポテンシャル



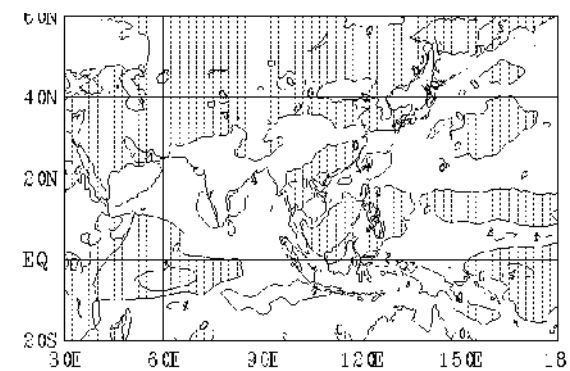
200hPa流線関数



850hPa流線関数



降水量



SST偏差は、ラニーニャ現象的かつ負のインド洋ダイポールモード的な分布。また、東シナ海から北太平洋中緯度帯で広く強い正偏差。

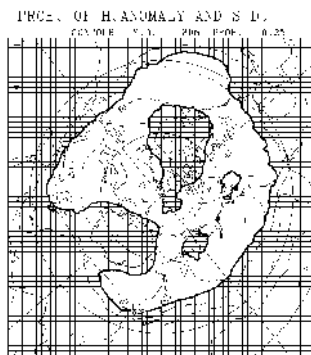
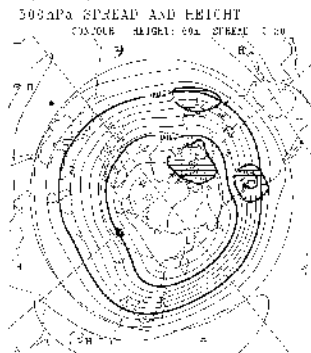
200hPa速度ポテンシャルは、ベンガル湾から南シナ海付近を中心に発散偏差、太平洋熱帯域の中部から東部で収束偏差。SSTと熱帯季節内変動の影響。

200hPa流線関数は、アラビア半島からインドの北を中心に高気圧性循環偏差で熱帯対流活動の影響。日本付近も高気圧性循環偏差で、熱帯対流活動に加え、北方からのロスビー波束伝播の影響も。

850hPa流線関数は、対流活動に関連しインド洋からフィリピン東方にかけて低気圧性循環偏差、日本の南東海上で高気圧性循環偏差で、沖縄・奄美、東・西日本太平洋側に暖かく湿った空気が流れ込みやすい。

降水量は、インド付近で多雨偏差。

予報資料の解釈(1か月) 北半球循環場

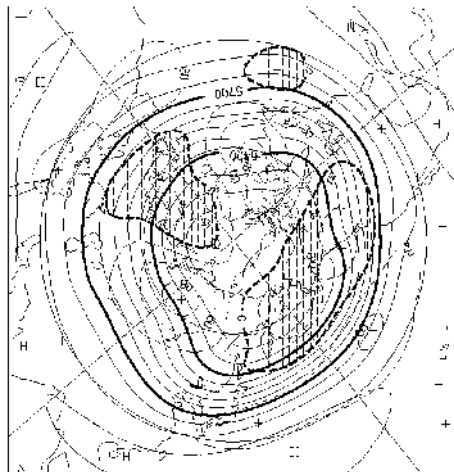


500hPa高度は、ユーラシア大陸北部で波列状の偏差パターンが卓越、その一環として中央シベリアにリッジ、東シベリアから沿海州付近にかけてトラフ。日本付近は正偏差で北海道を除き正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。

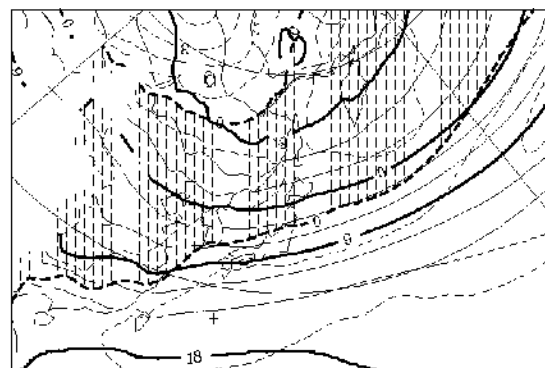
850hPa気温は、華中から北海道の東にかけて帯状に負偏差の一方、華南から日本の東にかけて帯状に正偏差で、この領域では気温の南北の傾きが大きい。

海面気圧は、上空のトラフリッジに対応して、大陸でシベリア高気圧が強く、日本付近に張り出し、北日本では寒気の影響を受ける時期がある。一方、日本の東は気圧の谷で、また、沖縄の南から日本の南にかけて負偏差で、東・西日本太平洋側と沖縄・奄美では低気圧や前線、湿った空気の影響を受けやすい。

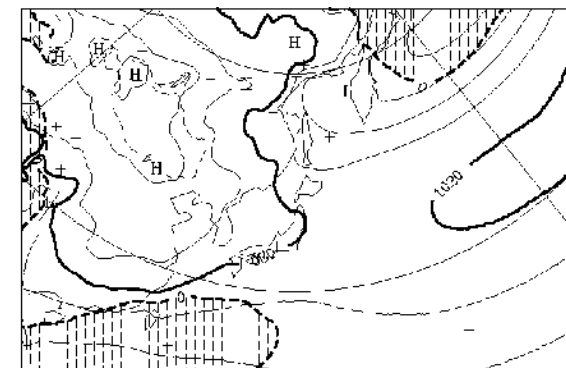
500hPa高度



850hPa気温

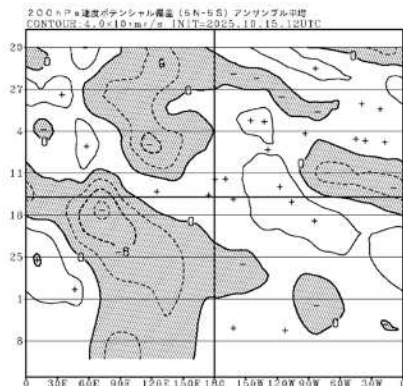


海面気圧



予報資料の解釈(各週) 熱帯の対流活動

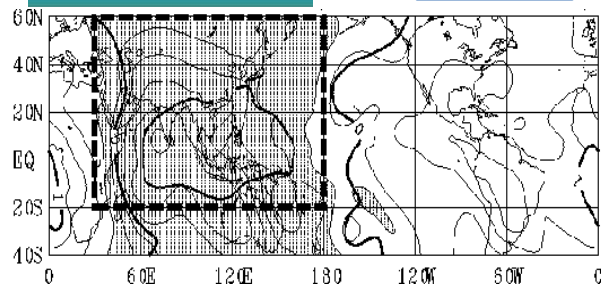
200hPa速度ポテンシャル偏差時系列



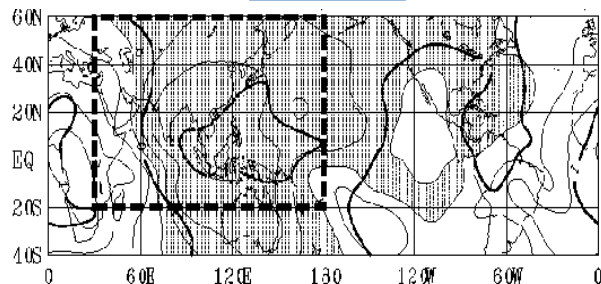
200hPa速度ポテンシャルは、期間前半にMJOに伴う発散偏差域がインド洋からインドネシア付近にかけて東進、その後停滞。一方、インドから南シナ海にかけての発散偏差は持続。降水量は、インド付近の多雨偏差が持続。南シナ海から日本の南にかけての多雨偏差も持続。

200hPa速度ポテンシャル

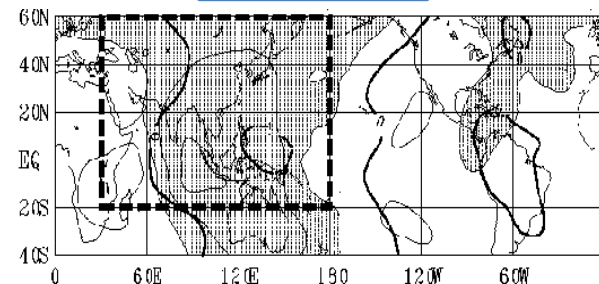
1週目



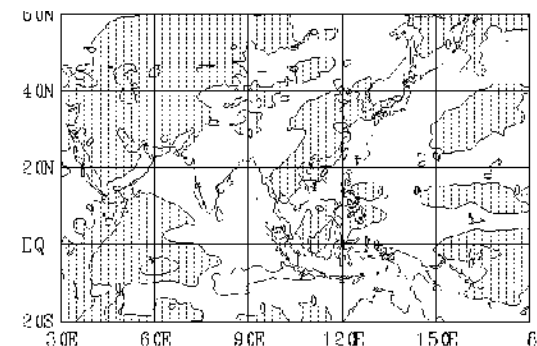
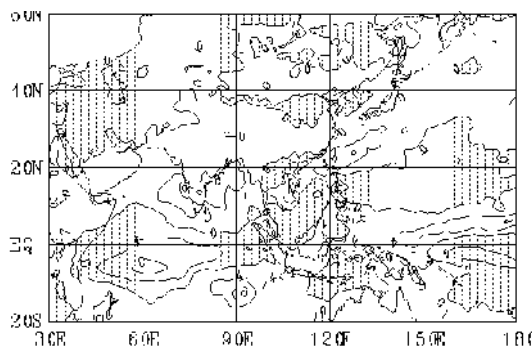
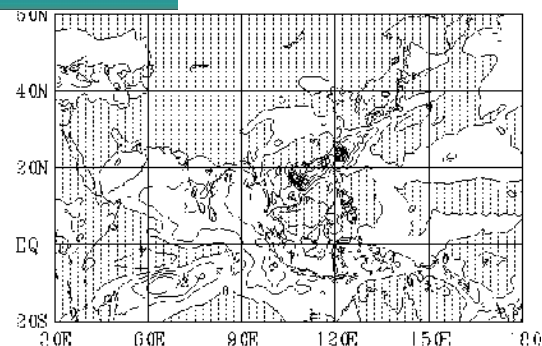
2週目



3～4週目



降水量



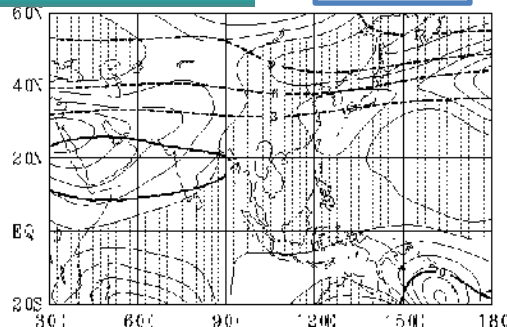
予報資料の解釈(各週) 熱帯循環場

200hPa流線関数は、アラビア半島からインドの北を中心に高気圧性循環偏差が期間を通して持続(熱帯対流活動の影響)し、その下流は亜熱帯ジェット気流に沿ったロスビー波束伝播で、日本の南では高気圧性循環偏差が持続(1週目には北からの影響も明瞭)。3~4週目には北からの影響が弱まり、日本の東で高気圧性循環偏、高周波じょう乱の影響も。

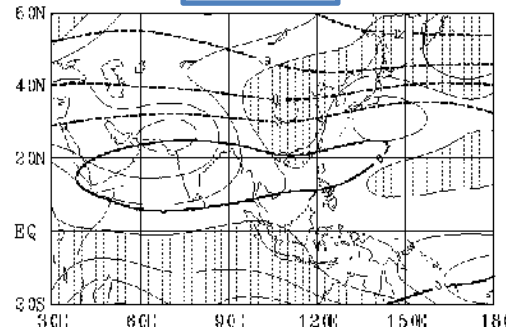
850hPa流線関数は、アラビア海からインドシナ半島付近にかけての低気圧性循環偏差が期間を通して持続(熱帯対流活動の影響)。フィリピン東方は2週目の高気圧性循環偏差から、3~4週目には低気圧性循環偏差に変化(MJOの影響)。

200hPa流線関数

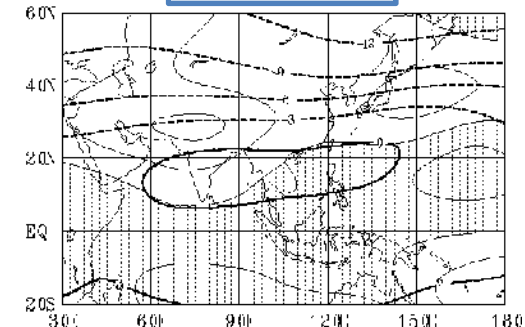
1週目



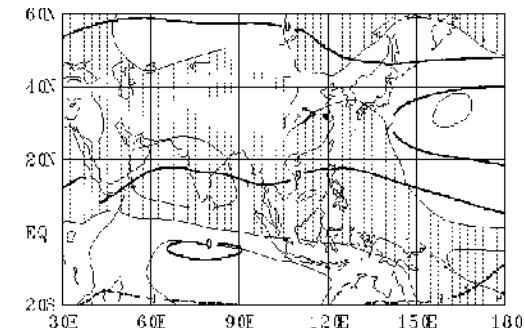
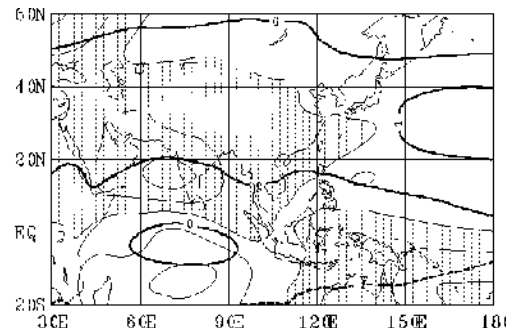
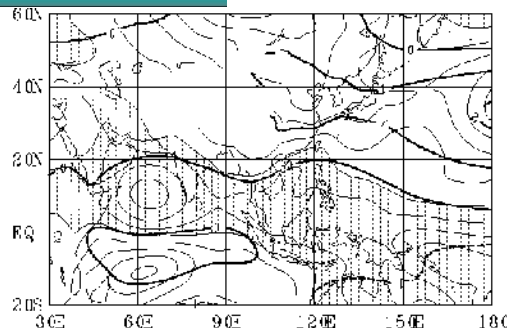
2週目



3~4週目



850hPa流線関数



予報資料の解釈(各週) 北半球循環場

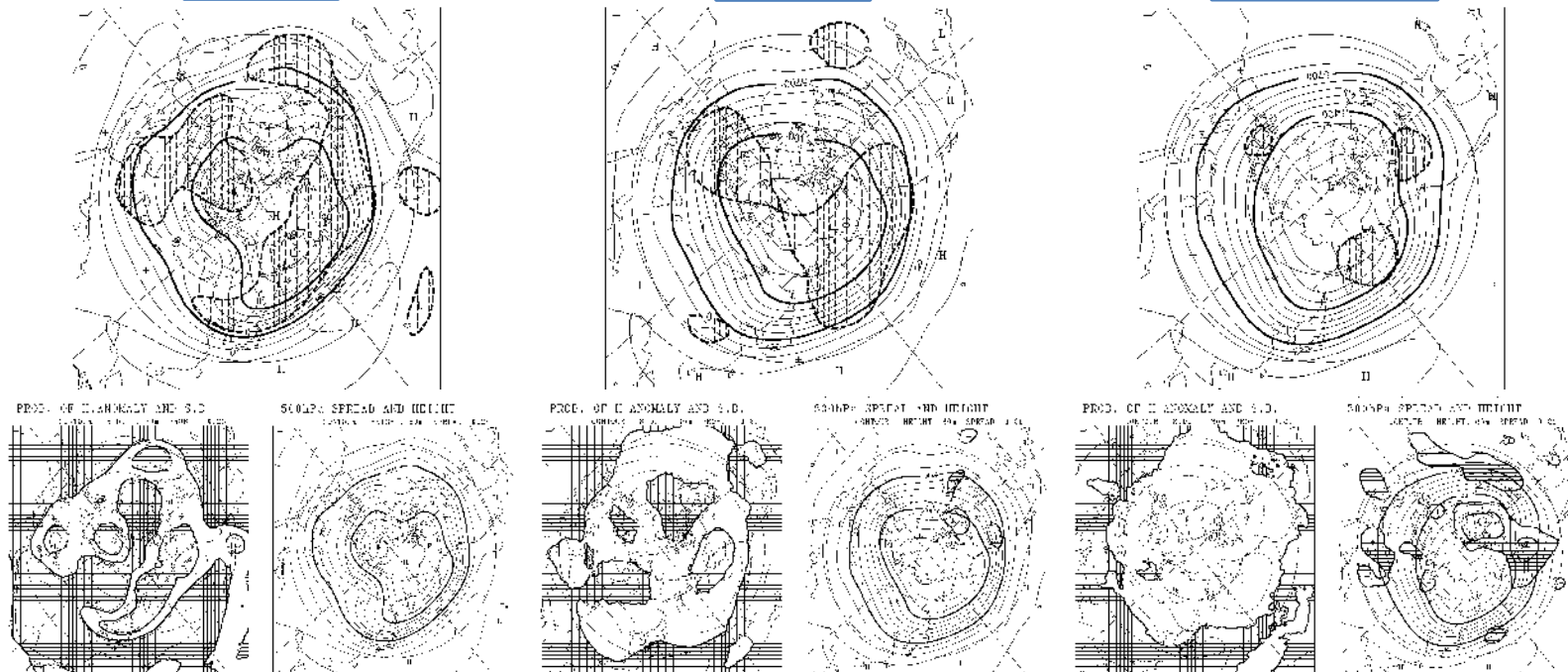
500hPa高度は、1週目は寒帯前線ジェット気流沿いの波束伝播が明瞭。その一環で、中央シベリア付近でリッジ、東シベリアから中国東北区にかけてトラフ。その状態は2週目には弱まり、3～4週目には日本付近から日付変更線付近にかけて帯状の正偏差が強まる。日本付近は、東・西日本と沖縄・奄美では期間を通して正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。北日本では、1週目は負偏差、2週目以降は正偏差で、3～4週目は正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。ただし、3～4週目はモデルが苦手なMJOの影響を考慮し、日本付近の高度をやや下げて考える。

500hPa高度

1週目

2週目

3～4週目



予報資料の解釈(各週) 日本周辺循環場

850hPa気温は、1週目は大陸から日本のはるか東にかけて広く負偏差。日本付近は北日本を中心に負偏差が強く、北海道は -4°C 以下の負偏差。一方、西日本の一部と沖縄・奄美は正偏差で気温の南北の傾きが大きい。この状態は2週目以降には解消し、3～4週目には全国的に正偏差となる。

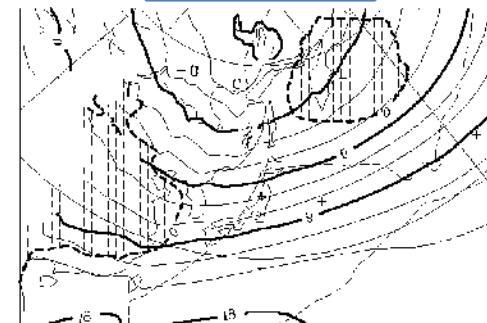
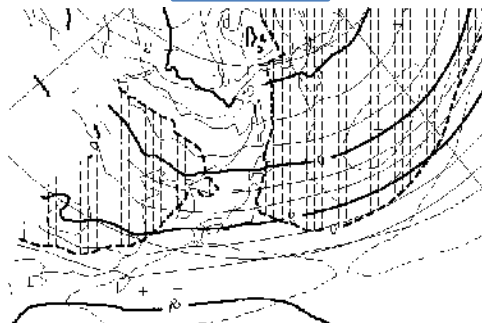
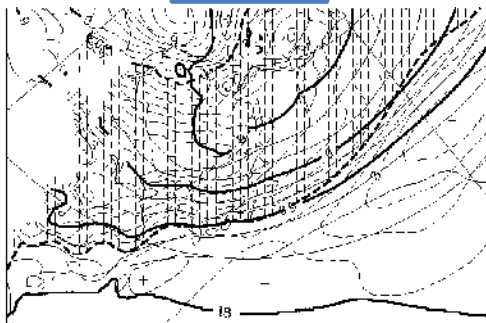
海面気圧は、上空のトラフリッジに対応して、1週目はシベリア高気圧が強まり、北・東日本は冬型の気圧配置で、特に北日本はこの時期としては強い寒気の影響を受ける。2週目にはこの状態は弱まるが、3～4週目にかけて南シナ海から日本の南は負偏差となる。東・西日本太平洋側と沖縄・奄美では低気圧や前線、湿った空気の影響をやや受けやすい。

1週目

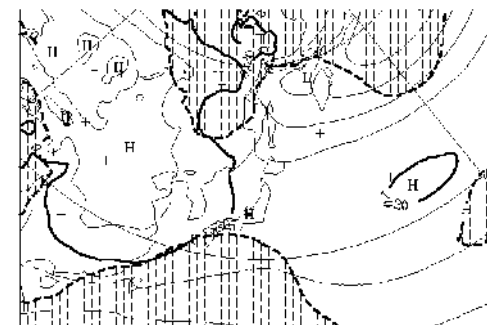
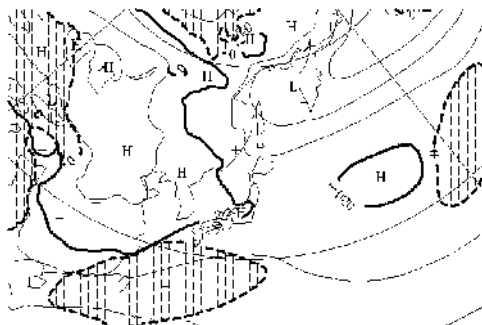
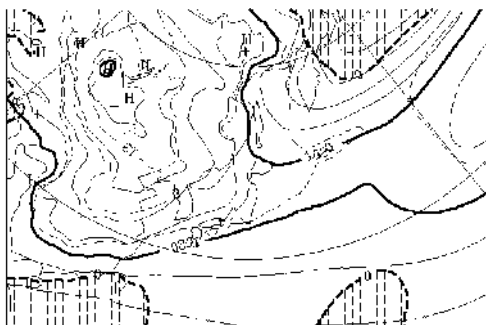
2週目

3～4週目

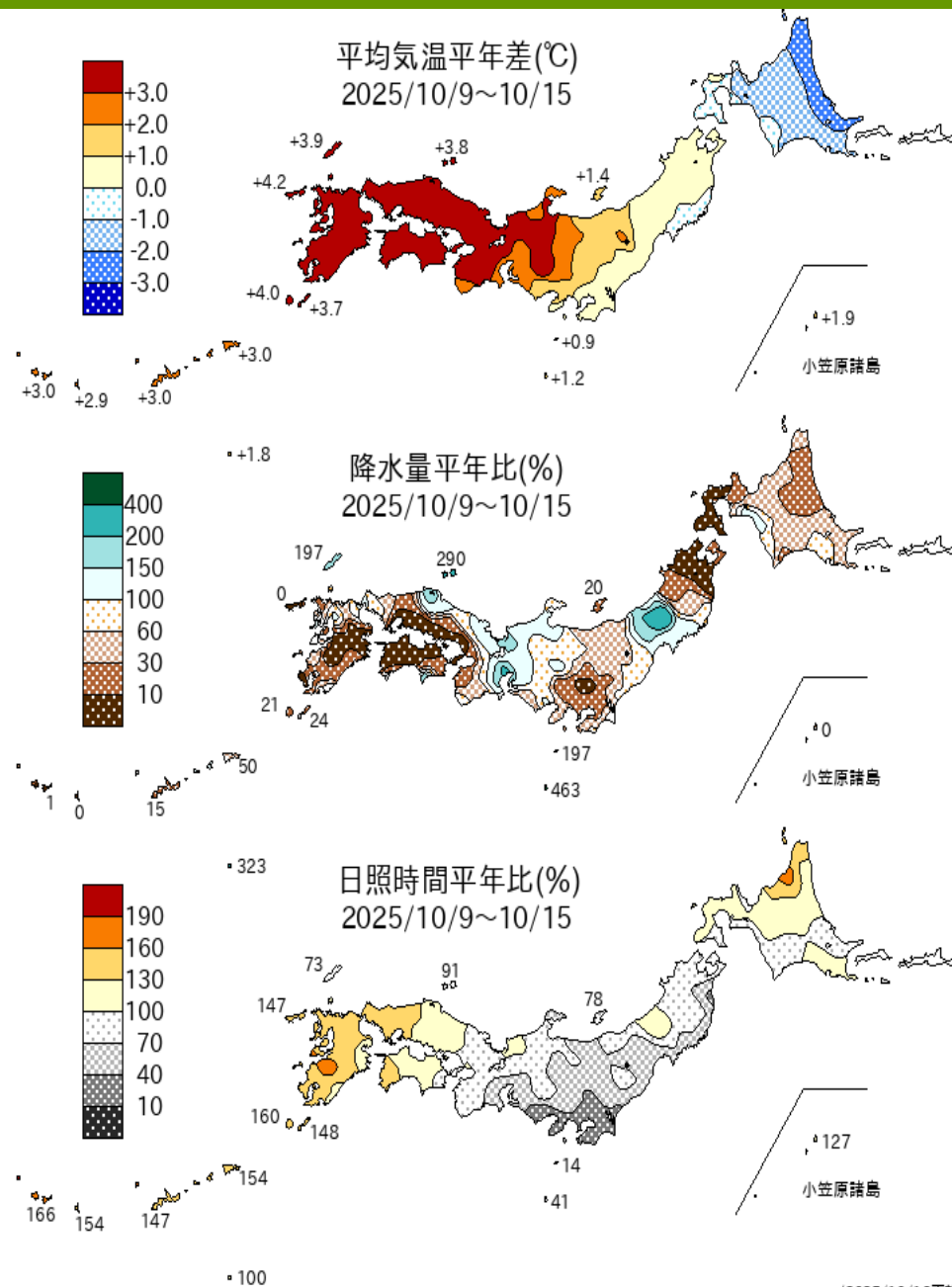
850hPa気温



海面気圧



(参考)最近1週間の天候経過



最近1週間(10月9日~10月15日)は、北・東日本では、天気は数日の周期で変わりましたが、低気圧、前線や台風の影響を受けて日照時間が平年を下回った所が多くなりました。台風第22号と第23号の影響を受けた伊豆諸島では線状降水帯が発生し、八丈島では記録的な大雨が降りました。西日本と沖縄・奄美では高気圧に覆われて晴れの日が多く、日照時間が平年を上回った所が多くなりました。降水量は、東北南部や伊豆諸島などで平年を上回り、他は平年を下回った所が多くなりました。気温は、寒気の影響を受けた北海道を除き、平年を上回りました。特に、西日本と沖縄・奄美では平年を大きく上回り、12日には肝付前田(鹿児島県)で日最高気温が35.0°Cとなり、歴代で最も遅い猛暑日を記録しました。

(2025/10/16更新)

All rights reserved. Copyright(c) Japan Meteorological Agency